

冬ならではの管理作業

地味ですが効果の高い、冬にするのが良い樹木管理作業を紹介します
—「かんじんなことは、目にみえないんだよ」— (☆の王子様より)

マツの薬剤注入 (松枯防止剤)



左の写真の赤茶けたマツのように、今までみどりを湛えていたマツがある年突然枯れてしまうマツ枯れの被害が治まる気配がありません。マツは枯れると二度と元に戻りません。

マツ枯れの要因として、マツノザイセンチュウという線虫がマツの樹体内に侵入し生理異常を引き起こし枯らしてしまうことが知られており、その線虫の侵入と増殖防止として「松枯れ防止樹幹注入剤」を注入することで、マツ枯れを予防することが出来ます。

薬剤注入の施工時期は薬剤の樹体内への入りやすさと線虫の増殖時期前の12月～2月(遅くとも3月中)に実施することが必要です。弊社で施工を承っておりますので、マツを保護したい方は是非ご相談下さい。1回の施工で最長7年の防除効果があります。

また、枯れてしまったマツは新たなマツ枯れの発生源になるため、時期を問わず、伐採撤去処分が大切です。伐採したマツはチップ化や、くん蒸処理が必要です。

施工手順



①マツの健康状態の確認、胸高直径の確認と薬剤使用量をきめる。説明書にあるドリルの刃径を守り、角度や深さに注意して穴を開ける。



②薬剤のボトルをノズルキャップの根元までしっかり差し込む。この差し込みが甘い、液漏れや後日障害の原因となるので、しっかり行う。



③注入時間は通常 3～6 時間であるが、早いもので1時間、遅いものでは48時間位である。注入具合が悪い場合、打ち替えをすることもある。



④注入した穴をふさぐ。穴を放置すると雨水や雑菌が侵入して後日障害の原因となることがあるため、殺菌癒合剤等で穴の上部をふさぐ。

寒肥と土壌改良

厳密に言えば違う作業ですが、寒肥をすることで土壌改良効果もあり、土壌改良するときに施肥を行えば寒肥の効果もあります。冬がオススメです。

寒肥は、この先1年の樹木の生育を促す重要な作業です。特にバラなど肥料を多く必要とする樹木にとっては、この先の花つきを大きく左右します。

一般に根は樹冠と同程度の広がりを持ち、土中の養分を吸収する細根はその広がり先端に位置する事が多いため、施肥の位置は枝先の真下あたりを目指して行うのが効果的です。



写真はバラですが、根元の周囲を掘り、主に有機質肥料(堆肥・油粕・骨粉・過燐酸石灰等)を元の土と混合して、埋戻します。



土壌改良とは、生育不良になった(又は可能性のある)樹木に対し、土中の通気性、排水性(又は保水性)の改善を行い、細根等の伸長を促す事である…と書くと何だか難しいのですが、要は樹木を元気にするための作業です。

様々な種類があり、例えば汚染された土壌を丸ごと入れ替えてしまうのも土壌改良ですが、今回は大規模な掘削等を伴わない方法を2つ紹介します。

1つ目はピックエアレーション工法です。主に固結した土壌に高圧の空気を送り込むことにより、土を柔らかくして土壌の物理性を高めます。

2つ目は割竹縦穴式土壌改良工法です。長期的に土中の通気性を改善すると共に、施工時の堆肥や定期的に薄めた液肥を与えることにより肥料不足を補うことも出来ます。

ピックエアレーション(PA)工法

エアコンプレッサーとピックの先に圧縮空気を送り出す穴の開いたピッキングマシンを用います。圧縮空気を送ると地面が一瞬浮き上がります。専用機械が必要ですが、広範囲に短時間で施工出来ることや土壌を掘削する必要がないため、芝生地や狭い場所での施工も可能です。

開いた穴(深さ50cm)に堆肥や肥料を入れることで、土壌の通気性の改善とともに肥料不足を補うことも出来ます。



割竹縦穴式土壌改良工法

本来は、土を直径30cm深さ1m程度掘削して、節を抜いた割竹を設置し、周りを堆肥等で充填しますが、下の施工例では、応用しています。



①半割にした竹の節を抜いたものを合わせ、シュロ縄等で結束したものを土中に差し込む



②差し込んだ割竹の周囲に堆肥等土壌改良材や肥料等を入れる



③この施工例の場合、樹木の周囲を植栽枠で囲われ土が割竹上部近くまで入った